

競 技 注 意 事 項

- 1 規 則
- ①本大会は、2020年度日本陸上競技連盟競技規則及び本大会申し合わせ事項によって行う。
 - ②本大会では、日本陸上競技連盟規則第162条の5の(C)により、音声や動作その他の方法（ピク付き動作を含む）で他の競技者を妨害した場合、最初は注意（グリーンカード）に留めるが、繰り返し行う場合は、警告（イエローカード）を与えることがある。最初の警告を受けた後、2回目以降の警告を受けた場合は、その種目は失格とする。ただし、それ以降の競技からの除外は行わない。
 - ③本大会は無観客で行うので競技場には選手・競技役員以外の入場は認めない。
- 2 練 習
- ①ウォームアップは、第2陸上競技場で行う。その時は、役員の指示に従い事故防止に努める。また、使用した器具は元の場所に返却すること。
 - ②第1陸上競技場の雨天走路での練習は認めない。
 - ③投てき種目の練習は、招集完了後本競技場で行う。役員の指示以外による練習は、危険防止のため一切禁止する。また、第2陸上競技場での投てき練習は危険防止の為、一切、認めない
 - ④大会参加者以外の第2陸上競技場での練習は認めない。
 - ⑤開門時間（練習開始時間）は第2陸上競技場が7時、第1陸上競技場が8時とする。
- 3 招 集
- ①招集所は第1陸上競技場の正面玄関前に設ける。
 - ②招集開始時刻及び招集完了時刻は、競技開始時刻を基準とし下記のとおりとする。
- | 種 目 | 招集開始 | 招集完了 | 現地招集 |
|-------------|------|------|------|
| トラック種目 | 30分前 | 20分前 | 10分前 |
| 走高跳・走幅跳・三段跳 | 70分前 | 60分前 | 50分前 |
| 棒高跳 | 90分前 | 80分前 | 60分前 |
| 投てき種目 | 70分前 | 60分前 | 50分前 |
- ③招集完了時刻に遅れた競技者は、当該競技種目を棄権したものとして処理する。
 - ④競技者は、招集開始時刻から完了時刻までに招集所に準備されたスタートリストに○をつける。
 - ⑤招集完了後、トラック競技の選手は出発係の指示に従い競技場に入場し、現地で点呼を受ける。また、フィールド競技の選手は競技場への入場を認め、現地招集時間に現地で点呼を受ける。
 - ⑥2種目を同時に兼ねて出場する競技者は、招集開始時刻までに所定の用紙を招集所に提出する。

- ⑦出場する種目を棄権する場合は、招集開始時刻までに棄権届を招集所に提出する。

4 入退場

- ① 競技場には選手以外は入場できない。選手は入場の際、「アスリートビブス（ナンバーカード）付きユニフォーム」を提示すること。
*付き添いが付けられない為、着替えやシューズはスタート地点に残すことになるので各自、まとめられる袋などを用意することが望ましい。その際、雨天になることも想定して準備すること。
- ② 入場 原則100mスタート地点ゲートとする。但し次の種目に参加する選手はフィニッシュ地点ゲートを利用しても良い。
*800m 1500m 400mH 走高跳 ハンマー投 円盤投
- ③ 退場 トラック競技出場選手はレース終了後、荷物を取りに行き、極力ユニフォーム姿で入場したゲートより速やかに退場する。フィールド競技出場選手は競技終了後、入場したゲートより速やかに退場する。
- ④ 荷物を取りに行く時はメインスタンド前が通行禁止であるので、バックストレートを通り、スタート地点に戻り退場すること。
- ⑤ オープン高校4×100mリレーは4人まとまって100mスタート地点ゲートから入場すること。退場はどちらのゲートを利用しても良い。

5 アスリートビブス

アスリートビブスは胸と背にしわにならないようにのぼして四隅を結着し、切ったり、曲げてはいけない。ただし、跳躍競技については1枚を胸または背につけるだけでもよい。また、トラック種目は腰ナンバーカードを右腰後方につける。

- 6 番組編成
- ①トラック競技の予選の組及び走路順、フィールド競技の試技順は主催者が抽選しプログラムに数字で示す。
- ②トラック競技の準決勝、決勝の組及び走路順は、番組編成員が抽選し招集所に掲示する。
- ③トラック競技の準決勝及び決勝の出場者を同タイム者の中から決める場合、800mまでの種目とリレー種目については、写真判定を細部まで読み取り、1000分の1秒以上の差があれば優劣を判定し出場者を決める。この方法により判定できない場合は、同タイムとなった該当の競技者、チームまたはその代理人によって抽選を行い、出場者を決める。

7 棒高跳支柱移動申告について

競技者は、自分が希望する支柱の位置を所定の「棒高跳支柱移動届」に記入し、跳躍審判員に提出する。「棒高跳支柱移動届」用紙は招集所で配付する。

8 走高跳、棒高跳におけるバーのあげ方は次のとおりとする。

	練習	1	2	3	4	5	
男子走高跳	1.80	1.85	1.90	1.95	2.00	以降 3cm	
女子走高跳	1.45	1.50	1.55	以降 3cm			
男子棒高跳	4.00	4.20	4.40	4.60	4.70	4.80	以降 5cm
女子棒高跳	2.60	2.70	2.90	3.10	3.20	3.30	3.40 以降 5cm

天候等により、審判長の指示で最初の高さを変更することがある。

9 競技からの除外

競技運営上必要と認めた場合は、トラック競技においてすべての競技者が競技を終了していない時点でも審判長が競技を打ち切ることがある。

10 リレー競技について

①リレー競技に出場するチームは、リレーオーダー用紙1部を第1組の招集完了時刻1時間前までに招集所に提出する。リレーオーダー用紙は招集所に用意する。

②リレー競技においては、チームの出場者は同一ユニフォームを着用する。

11 用器具 競技に使用する用器具は競技場備えつけのものを使用する。ただし、棒高跳用ポールに限り検査を受けて個人ものを使用する。

12 表彰 第1位には選手権章を、第1位から第3位までには賞状を授与する。第1位から第3位までの選手は荷物を持って、正面玄関内ホールの表彰控室に来ること。

13 抗議 日本陸上競技連盟、競技規則第146条による。

14 競技場に商品名のついた衣類・バックを持ちこむ場合について

①上半身の衣類については、製造会社のロゴは四角形の面積が30平方cm以内、文字は縦4cm以内、ロゴ全体では縦5cm以内、表示は1ヶ所のみとする。

②下半身の衣類については、製造会社のロゴは四角形の面積が20平方cm以内、文字は縦4cm以内、表示は1ヶ所のみとする。

③バッグは、製造会社のロゴは四角形の面積25平方cm以内、表示は2ヶ所のみとする。

④ソックスは、面積5平方cm以内、縦2.5cm以内の社名及びロゴ1ヶ所とし、シューズあるいは衣類製造会社のいずれかでなければならない。

15 その他

- ① メインスタンド、芝生スタンドへの立ち入りを禁止する。
- ② 横断幕・のぼり旗等については設置しない。
- ③ 各チームの荷物はすべて毎日、持ち帰ること。競技場内保管は一切、認めない。但し、テントの骨組みだけは第2陸上競技場に置いて帰ることができるが第2陸上競技場内へのテント設置はできない。
- ④ 携帯電話・トランシーバー・ビデオカメラ・音楽再生機器等、競技場内に持ち込むことはできない。
- ⑤ 競技場内での日傘の使用はできない。但し、フィールド競技のみ天候に応じて認める。
- ⑥ 園路での集団走は厳に慎むこと。
- ⑦ 使用可能トイレは競技場見取り図を参照し、入退場場所は次の通りである。
100mスタート地点ゲートと正面玄関入口からとする。その際にアスリートビブスを提示すること。
- ⑧ メインスタンド裏のコーンコースの場所取りはできないが、雨天時には開放することがある。
- ⑨ プログラムのナンバー、氏名等の訂正は早めに総務へ届け出る。
- ⑩ セパレートレーンを使用する競技においては、フィニッシュ後は決められたレーンに沿って走り抜ける。
- ⑪ 競技者は清潔で、不快に思われないようにデザインされ仕立てられた服装を着用しなければならない。
- ⑫ 控所、洗面所、競技場内外の清掃・整頓につとめる。
- ⑬ 更衣室では更衣のみを行う。貴重品等の管理は各自で行い、紛失盗難等には十分注意する。
- ⑭ ホームストレート側本部席からフィニッシュライン付近の、役員室前のアウトフィールド部分の通行を禁止とする。
- ⑮ ゴミは原則として各自で責任を持って持ち帰る。分別処理をして所定の場所に捨てても良い。
- ⑯ 競技中に発生した事故などについては、応急措置を主催者で行うが、以後の責任は負わない。
- ⑰ アスリートビブスについて
 - (ア) 一般・中学生についてはアスリートビブスを配付する。その際、学連登録者のみアスリートビブス代金として1000円を納入する。
 - (イ) 高校生は高体連登録のものを使用する。
- ⑱ 受付については、正面玄関前の競技者受付で行う。参加者は体温チェックシートを提出すること。また、一般・大学生はアスリートビブスを配布する。

コロナウイルス感染リスク軽減について

1. 3蜜（密閉・密集・密接）の回避

①ソーシャルディスタンスの確保

*人と人との身体的距離のこと、できるだけ2 m最低1 mを目安に間隔を空ける。

②こまめに手洗いまたは手指の消毒を行い手を清潔に保つ。物の受け渡しは極力避け、避けられない場合も、手洗い・手指の消毒をする。

2. 共通事項

①競技会1週間前から体調管理および検温を行い、指定の体調管理チェック表に記入する。

*以下の事項に該当する場合は、自主的に参加を見合わせること。

・体調がよくない場合（例：発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合）

・同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合

・過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合

*提出前に、提出するデータをコピー又は写真に撮り、自身でも保管すること。

②大会当日、来場者すべての体調管理チェック表を正面玄関前の競技者受付に提出すること。団体の時は代表者がまとめて提出しても良い。

*提出されない場合は参加（来場）を認めない。

③運動時以外のマスクの着用、手洗い・洗顔を徹底する。但し、マスク着用による熱中症に気をつける。

④マイタオルを持参すること。

⑤トイレ使用後は便座の蓋を閉めてから流すこと。

⑥ゴミは各自持ち帰る。

⑦競技会参加者は競技会参加後、2週間以内に発熱などの症状が4日以上続く場合は必ず最寄りの開催自治体の保健所（医師等）に報告・相談し、大会主催者に報告する。

3. 競技者

①競技者は原則競技開始時間に合わせて来場し、競技終了後速やかに帰宅する。

②ウォーミングアップは個別に行う。

③競技用具使用後は手洗い・手指の消毒をする。

④更衣室の滞在は短時間とし、シャワールームの使用を禁止とする。

*更衣室の開放は女子のみとする。

⑤運動中につばや痰を吐くことは極力行わない。

⑥体液の付着したゴミは自己責任で処理する。（基本的に持ち帰り）

4. チーム関係者・応援・観客

①無観客で実施する。

②声を出しての応援、集団での応援を行わない。

③混雑を回避するため、競技者に付き添う者の競技場への入場を禁止とする。また、ウォーミングアップ場への立ち入りを原則禁止とする。

④ウォーミングアップ会場の観戦を禁止する。

⑤競技終了後は速やかに帰宅すること。（ミーティングを行う必要がある場合は、三密を避けること）

5. トラック種目注意事項

①スタート位置やフィニッシュ後に留まることを短時間とする。

②レース中のマスク着用は義務づけはないが、招集中・移動中・待機中はマスクを着用する。但し、マスク着用による熱中症に気をつける。

③レース後、手洗い・洗顔を徹底する。

6. フィールド種目注意事項

①待機場所における競技者同士のソーシャルディスタンスを確保する。

②投てき競技で用具を共用した場合、競技終了後の手洗い・洗顔を徹底する。また、試技の前後に手指の消毒を実施し、競技中に不用意に手で顔を触らぬように注意する。跳躍種目における着地マットや砂場も同様である。

③滑り止め（炭酸マグネシウム）利用については、共有しない方法で実施する。競技役員から適量を受け取る方法や小分けにして競技者に渡す方法、また競技者の持ち込みも可とする。

④助走練習、投てき練習時に並ぶ時はソーシャルディスタンスを確保する。

⑤競技者同士の会話は極力避け、待機中はマスクを着用する。

7. 個人情報取得の同意

①個人情報の取得目的に明記

・競技運営目的以外に感染症予防対策目的として個人情報を取得する旨の同意を取得する。

②個人情報の第三者提供

・大会主催者が保健所・医療機関等の第三者へ情報を提供することへの同意を取得する。

③個人情報の保管期間

・取得した個人情報は大会終了後少なくとも1か月以上とする。

・保管期間を過ぎた当該情報は、適正かつ速やかに廃棄をおこなうとともに、廃棄した証を保管する。